

四万十町

株式会社 四万十ドラマ (道の駅 四万十とおわ)



四万十川に負担をかけないものづくり

■活動時期 → 通年

■活動場所 → 四万十～全国へ

■主な活動メンバー： 社員・地域住民
【ホームページ】

<http://www.shimanto-drama.jp/>

<http://www.shimanto-towa.com/> (道の駅)

(取り組み内容)

四万十川の自然環境を保全しながら活用することをベースに、環境・産業・ネットワークを循環させ、四万十川に負担をかけないものづくりを実践。

◆コンセプトは「ローカル」「ローテク」「ローインパクト」

【ローカル】

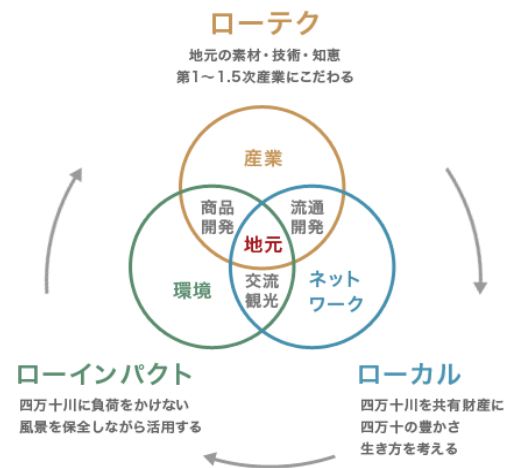
四万十川を共有財産に足元の豊かさ・生き方を考えるネットワークの構築すること (会員制度・観光産業)

【ローテク】

農林漁業に生きづく技術や知恵や第1次、1.5次産業にこだわること (商品づくり・産業づくり)

【ローインパクト】

四万十川に負荷をかけない風景を保全しながら活用する仕組みをつくること (環境ビジネス・風景保全)



この考え方の軸に「ローフード」「ローライフ」の提唱を加え、山と川の暮らしと天然素材に新しい価値観をつくり、流域に住む人とともに生活文化、技術、知恵、風景を残しながら、四万十川流域の新たな産業をつくっていく。

◆事業紹介

①物産販売

地元の農林漁業の素材にこだわり、素材の良さに付加価値をつけ雇用の場や販売ノウハウをつくる。地元の人と一緒に考え、流通も一緒に動いてつくる。

②商品開発

四万十川に負担をかけない地元の資源 (人・産物・技術・風景) を活かした商品づくり

③道の駅「四万十とおわ」の運営

④観光交流

会員制度を中心に全国の方と相互交流を行い、そこでのアイデアや意見を地元を活かし地域づくり、ものづくりにも積極的に参加できる仕組みをつくる。

⑤ノウハウ移転

四万十ドラマの実績・経験をもとに他地域の商品・観光産業・その土地のオリジナルイメージづくりを支援。



【取り組みのポイント】

◆まずはやって見せる

田舎の人は無いものねだりが多くできない理由を並べてしまう。だからできる理由を並べる。やれば利益が上がる、それが地域を守ることに繋がる、ということを四万十ドラマでやって見せた

(取り組み例)



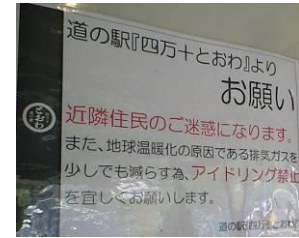
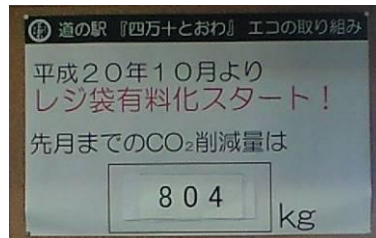
新聞を再活用する運動を四万十川流域からはじめようと「四万十川新聞バッグ」を作成。ハサミを使わず、ただ折って糊で留めただけのバッグ。考案者は流域のおばちゃん。現在でも品切れになるほどの人気で、アメリカやイギリスからも注文がくる。



生産者の皆さんが育て、自分達が普段食べている地産地消の採れたて野菜や加工品が並べた直販所「ときわ市場」中心となっているのは、地元「十和おかみさん市」の皆さん。ISO14001も取得！

◆経済+エコ = 持続可能な“究極のエコ”

環境が大事！エコが大事！と言ってもわかりにくい。だから行動で示す。「四万十川に負担をかけない」というコンセプトのもとに販売しているため、商品が売れる = “考え方”も一緒に売っていると言える。つまり売ることがエコになる。もちろん、ただ経済活動をするのではなく、利益があがれば山の手入れをしたり体験教室をしたりと、それを地域へ返していく。経済活動を含んだエコは継続できる究極のエコへと変わる。



道の駅「四万十とおわ」に掲示されている数々のエコ呼びかけ

【今後の展望】 若い人が地域に残れるように、来れるように、働ける場をもっと作っていきたい。年間300万のコミュニティービジネスでも100人でできれば3億の事業になる。

◆県民のみなさんへ一言

“ここにしかないもの”がある道の駅「四万十とおわ」へぜひ遊びに来てください。

(平成21年10月現在)